

今こそ歴史を鑑に！^{かがみ}日中間の友好と信頼が平和への道
若者と語る日中関係

2月19日(土)、20日(日)

時間：午前10時から午後4時30分まで(両日)
会場：なかのゼロ西館 19日学習室B、20日学習室A
(中野区中野 2-9-7 電話 5340-5000 中野駅南口から徒歩5分です。)

◆1年前から始まった自衛隊のイラク派兵。朝鮮・中国・アジア諸国への植民地支配と侵略戦争を真摯に謝罪してこなかった日本が、遂に再び戦争を開始したのです。米英軍が残虐な侵略戦争を行っているイラクの地で、日本軍が戦車でイラク民衆を抑圧しています。

中国は731部隊細菌戦をはじめとする日本の侵略戦争によって重大な被害を被っています。戦争犯罪を行った事実すら認めようとしない日本政府の姿勢に中国民衆は不信と怒りをつのらせてきました。自衛隊のイラク派兵を目にした中国とアジアの民衆の日本不信は爆発しようとしています。隣国中国と日本の友好がこれ以上損なわれたとき、アジアの平和は一挙に破壊されるでしょう。小泉内閣の靖国神社参拝強行などの一連の言動は明らかに日中友好を破壊するものであり、絶対に許すことができません。

◆8年目を迎えた細菌戦裁判。この間、一審の東京地裁は、①日本軍が中国に細菌作戦を実施した事実、②1万人を超える犠牲者、③国際法(ジュネーブ条約)違反などを認定しました。しかし日本政府は、未だに細菌戦を行ったことすら認めず、謝罪も拒否しています。日本政府は直ちに細菌戦の事実を認め、細菌戦被害者に謝罪と賠償を行うべきです。

◆中国侵略戦争を経た日中関係は、歴史を鑑として初めて日中友好の道を歩むことができます。その道を探る重要な役割は今や日本の若い世代に課せられています。

日中間の歴史問題、細菌戦毒ガス問題を含む戦争被害の諸問題、日中間の信頼問題、アジアと世界の平和、さらに日中友好活動の検証と今後の課題などについて議論しましょう。日中友好の芽を育て粘り強くたたかい続けましょう。

皆様のご参加をお待ちしています。

発言者(予定)：日中の若者たちと轟莉莉(東京女子大学・文化人類学)、王選(731部隊細菌戦裁判原告団長)、松井英介(医師)、土屋公献(731部隊細菌戦裁判弁護団長)、西川重則(平和遺族会全国連絡会代表)、殷燕軍(関東学院大学・国際政治学)、江田憲治(京都大学・中国近現代史)、吉田義久(相模女子大学・物理学)、むとう有子(中野区議)、ほか。



(2004/12/7 来日した中国人 50 名の原告・声援団参加のデモ)

会場では細菌戦展示会を行っています

3月22日(午前11時)の細菌戦裁判の結審法廷への傍聴をお願いします。

◆主催 731・細菌戦裁判キャンペーン委員会／731・細菌戦展示会実行委員会
／ABC企画委員会 ◆協力：731 部隊細菌戦被害国家賠償請求訴訟弁護団

連絡先：03-3501-5558 (一瀬法律事務所) & 03-3373-8318 (増田)・048-985-5082 (奈須)・0473-96-0553 (三嶋)